

ふくしま県人会だより

第24号
平成23年9月
福島県人会
北海道連合会

3・11からの日々と思いと
見える明日を

会長 熊坂成剛



神は私達にどんな警告を与えようとしたのだろうか、私たちがどのような啓示をそこから受け取ればよいのだろうか。

マスメディアから東日本大震災や福島原発事故をみると、今でもその衝撃は息をのみ言葉を失うほどであります。被災者の方々にとっては自分の力では対応しきれず、ただ時の流れを待つ人もいるかも知れませんが、加えて、放射能被害は重大だと思われまます。破壊し押し流す地震津波より形をそのまま残しながら

も、何十年も続くであろう放射能被害はより一層深刻なものとなることは目に見えています。人間の犯した罪科ならば頭を垂れて謝るだろうが、いま身の回りに起きていることを乗り越えねば、自分の歴史も家の歴史も私達をばぐくみ育ててくれた福島県の歴史風土は帰らない。私達を生み育ててくれた土地と大地を再生、復興しなければ福島県は福島県として存在しないことになってしまおうと思うからです。

道内の会員や関係者、福島県を心配する人々の義援金は、県の災害対策本部へ送られました。これらは復興の礎石の一つとなるでしょう。多くの皆様に感謝申し上げます。北海道各福島県人会は完全復旧を目指している福島の人たちの一歩前進を後押ししましょう。それが県人会の務めではないでしょうか。福島や東北へ旅するもよし、県産品を購入消費するも一つでしょう。「ふるさと納税」で応援することだつて良いではないでしょうか。親せき友人に知人に手紙・電話による励ましなど、今出来ること明日へ繋げる支

援を県人会はしようではありませんか。道内各地に避難して来た県人の方々へ多方面から温かい言葉、励ましとねぎらいをかけてゆきましよう。来年の県人会総会は復興への応援歌として行きましよう、皆様一層のご支援をお願いいたします。

連合会の活動

第三十九回連合会総会

第三十九回連合会総会は、四月一日に札幌市の「北海道経済センター」会議室において、連合会役員を中心に二十四名が出席し開催されました。

本来であれば函館市を会場に盛大に開催される予定でしたが、東日本大震災の影響を考慮して、日時・場所を変更して総会が開催されました。

席上、連合会の発展に御尽力を賜りました八名の皆様に感謝状が贈呈されました。

感謝状受賞者

- 小林 清昭 様 (札幌)
- 西田 勝 様 (函館)
- 佐々木勝男 様 (函館)
- 二瓶 利雄 様 (旭川)

- 川村八重子 様 (浜中町)
- 江川 英明 様 (稚内)
- 阿部 勇 様 (稚内)
- 大和田 静 様 (美幌町)



総会は、熊坂連合会会長を議長に選出して議事に入り、本年度の事業計画、収支予算などの議案が満場一致で承認されました。また、任期満了に伴う役員改選や今後の連合会総会についても協議されました。なお、第四十回総会については、当面、浜中町・別海町の担当で準備を進めていくとされたものの、今後の連合会総会のあり方については、母県の状況等を踏まえて年内に役

員で最終的な判断をすることとされました。

決定した役員は次のとおりです。

- 顧問 上田小八重(函館)
- 会長 熊坂成剛(函館)
- 副会長 金子民男(旭川)
- 同 木内将一(千歳)
- 同 神野修(苫小牧)
- 理事 天野登恵(浜中町)
- 同 一條木(稚内)
- 同 青田輝智(紋別地区)
- 同 打地健一(美幌町)
- 同 寺脇弘晋(札幌)
- 同 白石政司(別海町)
- 同 (敬称省略)

県人会の皆さまの温かい支援の輪が広がっています

東日本大震災発生直後から、各県人会で被災者に対する温かい支援の輪が広がっています。北海道に來られた避難者宅を訪問して話を聞いて励ましたり、地区や県人会のイベントへ招待し地域住民との交流を図るなど、様々な取組みが各県人会で行われています。

特に、義援金は総額3,305,700円の多額により、直接、福島県災害対策本部に送金いたしました。ありがとうございます。

会員通信

福島県からの避難者に対する市からの支援要請に対応
函館県人会 古山利勝

震災と原発事故発生後被災地から各地への避難者が相次いでいます。が、函館市がこれまでに受け入れた福島県からの避難者は二十八世帯です。(公営住宅等の入居で市が関与している分と民間移住者で市に移住の連絡があった分)そして市から当県人会に対しても避難者への支援につき協力要請がありました。

これにもとづき早速会長名で函館福島県人会の存在をお知らせし、故郷を同じくする者としてお役に立てることがあれば気軽に相談願いたい旨の手紙を送付しました。数軒には役員訪問もさせて頂きました。現在までに二名の方から相談を受けましたが、その都度市の担当者と連絡を取りながら支援を行っております。

避難者が少しでも住みよい生活ができるよう今後もできるだけの協力はしたいと思っております。

新会員紹介

札幌県人会

高萩 健(たかはぎたけし)

いわき市

函館県人会

吉田 悦美(よしだえつみ)

須賀川市

山田 正弘(やまだまさひろ)

会津美里町

紋別地区県人会

金田 章(かねたあきら)

南相馬市(旧鹿島町)

添田 和孝(そえだかずたか)

石川町

母県の動向

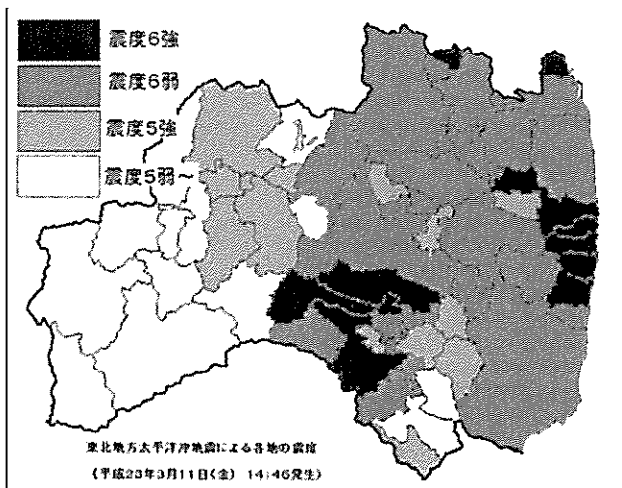
東北地方太平洋沖地震による被害状況

平成二十三年三月十一日(金)十四時四十六分、日本の太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。

震源域は東北地方から関東地方にかけて太平洋沖幅約二〇〇キロ、長さ約五〇〇キロの広範囲におよびました。地震は数分間続き、各地で道路の陥没や建物が倒壊しました。その後、浜通りにおいては巨大津波が襲来し、多くの人命を奪いました。また、須賀川市では灌漑用ダムの藤沼湖(藤沼ダム)が決壊し、下流地域の居住地を襲う惨事となりま

した。

一方、福島第1原子力発電所では、津波により冷却装置が破損し、水素爆発等により各地に放射性物質を飛散しました。



その後も余震は続き、特に震災後一ヶ月後の四月十一日には、震度6弱の地震がいわき市、中島村、古殿町で発生し、山の崩落など被害が発生しました。

福島県では震災直後「福島県災害対策本部」を設置し、一日でも早い復興・復旧を目指し災害対策を講じ、八月に「福島県復興ビジョン」を策定しました。今後は具体的な対策計画の「福島県復興計画」に取りかかり、避難されている方々が一

日でも早くふる里に帰還され震災前の生活に戻れるように、全力を挙げて対策に取り組んでまいります。なお、八月二十五日現在北海道には福島県から一、九一五人（北海道庁資料より）の避難者の方がおります。各県人会の皆様には、市町村や自治会からの避難者に対する支援の要請や、直接避難者からの依頼の対応など大変お世話になっており、感謝申し上げます。

県人会の活動紹介

美幌町福島県人会

今年も、和牛まつりは

打地会長宅

毎年、美幌町県人会は町内の網走川河畔公園で開催される「美幌観光和牛まつり」に参加し、会員の親睦を図っています。

今年も七月十七日（日）に開催された美幌観光和牛まつりに参加しようとチケットを購入し、河川敷きの会場に県人会の旗を立て、スペースを確保しておりましたが、朝から小雨が降り、やむをえず急きよ美幌牛肉を持って、打地会長宅に集まり親睦会を開催しました。

今年も、美幌町役場によると七世帯の方が福島県より避難されているそう、役場に連絡し親睦会に招待しましたが、生憎の雨で今回は

参加されませんでした。

打地会長さんは、「役場から福島県の小学生のキャンプについて相談もある。今後とも、美幌町に避難された福島県の方と連絡を取り、慣れない土地でもがんばられるよう支援をしていきたい」とおっしゃっていました。

来年の美幌まつりは快晴の下、新たなメンバーも加わり、河川敷きで美味しいバーベキューが出来ることを楽しみにしております。



（打地会長宅に集まった美幌町県人会の皆さん）

苫小牧福島県人会

風評被害に負けないぞ！
今年も好評

福島のもも



今年で十三年目を迎えた苫小牧福島県人会による苫小牧港まつりでの福島のもも（あかつき）販売は、放射能の影響か予約は若干少なかったものの、店頭販売では急きよ市場に連絡をして追加を持って来ても

らうなど、例年どおりの順調な売れゆきでした。



神野会長はもも売りを始めた当時を思い出し、「福島県北海道事務所からも販路拡大のため、苫小牧港まつりでの販売を持ちかけられ、初年目は百箱、二年目は二百箱と倍々のペースで販売量が拡大した。食べたことのないお客さんには四個人入りパックを販売した。そのお客さんは必ず次の年は箱で買って行き、今では千四百箱売れている」と目を細めておりました。

苫小牧港まつりと、福島県産のもの品種「あかつき」の収穫時期は正にびつたりで、いつも変わらない味と品質が、リピーターを拡大している

たものと思われず。
 今年は、会員に加えて「とまごま
 い若者サポートステーション」の方々
 も参加し、「風評被害をはねのけて」
 盛大に楽しくも販売を行いました。

福島県くだもの消費拡大委員会
 が札幌・旭川県人会を表敬訪問



北海道における福島県産ものの
 消費拡大PRのため、「福島県くだもの
 も消費拡大委員会」の皆様が、七月
 二十四日(日)から二十六日(火)の
 三日間来道しました。委員会の皆
 様は、札幌市・旭川市の市場代表者
 に県産ものの美味しさと、安全性
 をPRするとともに、市場のセリ台に
 立つて、仲買人に対しても県産もの
 PRを行いました。
 また、札幌福島県人会、旭川福
 島県人会を表敬訪問し、震災後復
 興・復旧を目指し取り組んでいるこ
 とや、風評被害に負けないよう頑
 張っていることの報告と、美味しく

実ったもものプレゼントを行いまし
 た。各県人会の皆様とも、今回の震
 災を大変心配しており、一日でも
 早い復興のため、出来る限りの支援
 をしていきたいと、力強い言葉を頂
 きました。

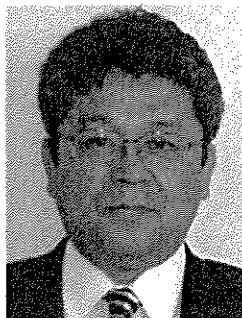
ももの風評被害を
 吹き飛ばせ！

北海道の皆様にも今年も安心して
 美味しい福島県産もものを食べてもら
 うため、七月二十五日(月)札幌市
 の地下道において、ももの試食によ
 る風評被害払拭PRを行いました。
 (福島県主催)



ミスピーチと、会津観光PRも兼ねて
 「娘子隊(じょうしたい)」に扮したスタ
 ッフが、北海道の皆様にもものを試食
 してもらい、改めて福島のももの美
 味しさを実感してもらいました。試食
 された皆様は、口々に「美味しい、
 美味しい！」とご満悦でした。なお、
 抽選で五名様にも一箱がプレゼン
 トされました。

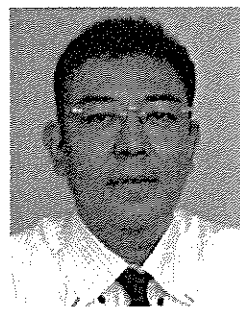
新任職員紹介



次長
 川島俊和
 出身
 郡山市

六月一日付けの人事異動により
 転勤して参りました。こちらに配属
 される前は、郡山市にある福島県
 農業総合センターにおいて、農業関
 係の試験研究に携わり、特に、震災
 以降は、放射性物質の研究課題の
 調整に取り組んできました。
 北海道の市場の方と話をすると、
 福島県のもものは大変人気があり楽
 しみにしております。特に、「あか
 つき」はお盆の時期に他県のものも
 少なく、無くてはこまるということ
 で、改め人気の高さに驚きました。
 今後とも、北海道と福島県の農産
 物の絆を大切にしてゆきたいと考
 えております。

また、一日でも早い福島県の復興
 に向けて、県人会の皆様と連携を
 図りながら、北海道に避難されて
 いる皆様の支援に努めてまいります。
 よろしくお願いたします。



主査
 小林秀樹
 出身
 矢吹町

このたびの人事異動により当事務
 所に参りました小林秀樹と申しま
 す。

今回の人事異動は、東日本大震
 災への対応のため、六月一日付けの
 異動となりました。

これまでは予算など総務系の事
 務に携わってききましたが、震災直後
 は、災害対策本部の物資班として、
 避難所への物資の手配に従事し、北
 海道を始め、全国の方々からの暖か
 い支援に感激をいたしました。

北海道には、これまで冬期間にし
 か訪れたことがなかったので、今回の
 赴任を機会に北海道の夏を始め、
 四季を堪能しつつ、福島県の良さを
 再発見できればと考えております。

微力ではございますが、精一杯頑
 張ってまいりますので、今後ともよ
 ろしくお願いたします。